

帯広刑務所

柔軟思考で再犯防止

福岡の更生保護塾長講義

犯罪や非行をした人の更生保護に取り組む一般社団法人「ヒューマンハーバー」とく塾(福岡県、副島勲代表理事)は、再犯防止を図る独自の取り組み「心のスポンジづくりプログラム」を、20日に道内で初めて帯広刑務所で実施した。出所後の就労に向けた同刑務所の教育の一環として、受刑者が受講した。

同法人は九州を中心に事業を展開。企業が親代わりとなって出所者を雇用し再犯防止を目指す、日本財団「職親プロジェクト」の事務局を務める。同プログラムは同法人が開発した。国語や算数など

の考え方を言いながら思考や行動を変化させ、出所後の就労継続や生活の安定、再犯防止を図る。思考の柔軟さや知識の吸収をスポンジに例えて命名された。



受刑者を前に、物事の捉え方について授業する原田塾長

この日は、職親プロジェクト本部・九州事務局長で同法人の原田公裕塾長が講師を務め、同プログラム24単元のうち1単元の講義を行った。同刑務所の職員ら16人も同席した。

原田塾長は受刑者にそれぞれ長所や短所を尋ね、「人の話を聞ける」「我慢が足りない」などの答えを受けると、『何に比べて』という基準が曖昧になる。視覚的・客観的に示して考える必要がある」と提起。グラフなどを用いた定量的な評価方法を伝え、「長所を伸ばすことと短所を減らすことは同じ。ならば長所を伸ばす方が楽しい」などと説

いた。受刑者は積極的に発言し、意欲的に取り組んだ。原田塾長は「視点を交えるきっかけづくりができる」と評価。同刑務所統括矯正処遇官の濱直樹看守長は「考えたことを適切に伝える刑務所での訓練の成果

がおおむね出ていた」と振り返った。今回誘致した職親プロジェクト道支部の長原和宣支部長は「スタートを切れてうれしい。道内の他の刑務所にも取り入れたい」と展望した。(貞野真生)